

尾山台ナザレン幼稚園
2023年度 学校自己評価
学校関係者評価

1. 学校評価を行うに当たって

尾山台ナザレン幼稚園が今後も幼稚園として存続していくためには、保育の質を高め、地域に認められる幼稚園にならないといけないと考えます。

今後、幼稚園として、保育の質を高めていくことが重要な課題ですが、どのようにして保育の質を高め、保護者に認知され、地域において認められるかを常に考えなければなりません。そこで、目指す保育として以下のように考え、実践していきたいと考えます。

なお、本園は、この自己評価を基に園を挙げて改善、改革に取り組み、より良い教育活動を行うように努めてまいります。

2. 尾山台ナザレン幼稚園の教育目標

教育目標	「みんなで育つ、みんなの幼稚園」を目標に、神に愛され、みんなに愛され、ともに育つ子どもとなるように成長を支援する。
教育の特色	保育のキー・ワードとして、 ① キリスト教保育 —— 愛されること、愛することを知る ② 自由保育 —— 自由遊びを通して遊びこむ ③ みんなの幼稚園 —— ひとりとして疎外されないでみんなで育つ のもとに、健全な心と身体をつくる。

3. 評価

	評価項目	具体的な取り組みと自己評価
キリスト教保育	日々の礼拝	日々の保育の中で短い時間であるが讃美歌を歌い、祈りをするを通して神様に愛されていることを教えていく。 園児たちは保育者の祈りに合わせるだけでなく、自分たちの言葉で祈ることができてきた。
	日曜礼拝	日曜日には、親子礼拝を行うことによって、初心の親にもわかるような題材と話し方によって、キリスト教への理解を求めた。 両親あるいは家族での参加もあり、キリスト教への理解を深めてもらえた。
	クリスマス礼拝	年少・年中はクラス毎に家族を交えてのクリスマス礼拝（ページェント）を持った。 園児たちのページェントを通してクリスマスを祝うことができた。
	聖話絵本の読み聞かせ	園からのクリスマス・プレゼントの絵本を読み聞かせでき、クリスマスの準備になった。 聖話絵本の続きを楽しみにするようになった。また、ある園児は聖書物語の絵本を数十冊一人で完読した。
自由保育	自由遊びを中心として	徹底的に遊び込むことを重点的に取り組む。特に年長組では子どもたちが考えた遊びをできるように見守る。 子どもたちが一人ひとり考えながら、やりたい遊びができるように見守り、時には助けて、遊びに入っていけるようにする。また子どもたち同士で集団で遊べるように手助けをしたりしていく。 園庭では他学年の子と一緒に遊ぶ事が多く、年長の子が小さな子の面倒を見ながら共に遊ぶ姿がある。
みんなの幼稚園	インクルーシブ保育に取り組む	障害のある子どもや集団生活が難しい子どもたちがいることによって、子どもたちがお互いの違いを意識しながらも受け入れていくことができた。 子どもたちにとっては、はっきりとした障害のある子よりも、突発的に手を出したりする子の受け入れには時間が掛かるようであった。

教育課程の編成と実施	個人記録の作成	個人記録を一人1ヶ月1枚の割で作成できた。子どもたちや保護者に対して随時閲覧出来るようにした。子どもたちや保護者の反響は良かった。
	制作について	母の日、父の日、クリスマスのプレゼントを製作するときにも、一斉に制作を行わず、小グループに分け行った。希望者から少しずつクラス全体に波及するようになった。
	食育について	園の田んぼで、田植えを行い、借り入れをし、精米して炊き、おにぎりにして食した。 園の畑で大根、サトイモ、小松菜、菜の花などを栽培し、収穫し、園で料理して食べた。 パンを焼いたり、クッキーを作ったり、あるいはおにぎりを作ったりして楽しんで食した。 碑文たちが作りたいもののレシピを保護者の手助けによりつくり、レシピにしたがってケーキを作って他学年の子どもたちにも配って楽しんで食した。
	園庭環境について	・ピオトープの一環として池を作り、金魚やめだか、ザリガニなどを放して育てた。子どもたちが慣れずに手で触ったりしたこともあり、死んだり、いなくなったりした。
研修	園内外の研修に参加する	外部の研修、あるいはオンライン配信による研修を受けた。 園内研修を1回行なった。
地域との連携	地域や小学校との協力連携	年長組が近くの老人ホームを訪問して、交流を行なった。 玉堤小学校との交流は行えなかった。
保護者との連携	幼稚園での子どもの様子を知ってもらう	日々の保育の様子をれんらくアプリを通して行なった。 保護者の保育参加を年2回行なった。
安全管理	防災訓練の実施 防犯訓練の実施	火災、地震に対する防災訓練を行なった。 防犯訓練を行なえなかった。
保健管理	園児の健康に関わる年間指導計画 健康診断の定期的な実施と園児の健	内科健康診断と歯科健康診断を行なった。 職員の定期健康診断を行った。

	康状況の把握	
預かり保育	預かり保育の充実	今年度は延べ 5,239 名の園児の預かりを行った（1 日平均 23 名強であった）。全体として、定期的に利用する園児が増えてきた。
未就園児	あんず倶楽部による親子教室	年度前半は親子教室として行ない、後半は子どもだけの預かり保育を行なった。後半は入園予定者のみであったが、子どもたちの親離れもスムーズに行えた。
れんらくアプリの活用	れんらくアプリの有効活用 おうちえんの利用	欠席届、預かりの申し込み、取り消しをれんらくアプリから行なった。 用品、写真の販売もれんらくアプリを通して行なった。 クラスだより、幼稚園からのお知らせ等をれんらくアプリから行なった。 緊急連絡等をれんらくアプリから行なった。

・幼稚園では、自由保育となり、個人記録の作成、保護者の保育参加により、またクラスだよりの発行等により保育の内容を公開してきました。今後とも、保育の内容についての透明性を高めるとともに、情報発信をしていきたいと考えております。

5. 2024年度の取り組み

教育目標「みんなで育つ、みんなの幼稚園」7年目

- ① 「みんなで育つ、みんなの幼稚園」の目標に向けて、中でも自由保育、それも徹底的に遊び込むことに重点的に取り組む。特に年長組では子どもたちが考えた遊びをできるように見守る。
- ② 個人記録の充実
- ③ 園庭環境の整備
- ④ れんらくアプリ（保護者連絡ツール）の有効活用
- ⑤ 預かり保育の充実
- ⑥ 未就園児の定期預かりの充実

6. 関係者評価委員会の評価

- ①本幼稚園の経営母体である宗教法人日本ナザレン教団の尾山台幼稚園運営委員会の評価です。

・園児の減少に対する手段として、幼稚園はもっと発信するように努力すべきではないか。例えば、SNS を利用した発信を行うようにして、幼稚園への関心を引き付けるようにすることも考慮すべきである。